

【実践報告】

保育実習及び保育実習指導の報告（福祉）

広島文教大学人間科学部人間福祉学科

教授 木村 敦子

准教授 宇都宮 千賀子

1 はじめに

人間福祉学科では、社会福祉士国家試験受験資格取得とともに、保育士資格取得を目指し、保育士課程を履修することが可能である。人間福祉学科の保育士コースの理想とする人物像として「保育の基礎的な知識・技術とともに福祉の諸領域に共通するソーシャルワーカーとしての素養と、それを土台とした社会福祉の専門性を身に付け、特別なニーズを必要とする子どもや保護者あるいは地域社会に対する総合的な子育て支援に貢献できる人材」を掲げており、人間福祉学科の保育士コースはソーシャルワークを土台とした学びであることが特徴である。

保育士資格の取得を希望する学生は、1年次後期から専門教育科目として保育科目を履修し、保育士業務に関連した対象、制度、支援方法について学びを始める。2年次後期からは、保育実習指導ⅠA、続く3年次前期の保育実習指導ⅠBにおいて保育実習の準備教育を進め、3年次8～9月に保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）、その後3年次後期に保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲで更なる準備教育を行い、3年次2～3月に保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲにおいて実習を重ねることとしている。実習施設は、児童福祉施設（保育所・保育所以外の児童福祉施設と障害者支援施設の一部（以下「施設」という。））であり、段階的に効果的な実習体験となるように進めている。学生は、社会福祉士としての学びも並行して行っており、保育実習Ⅰの後に社会福祉実習としての施設実習も行うことから、相互に効果を高められるように学科内の連携が不可欠である。

2022年度は2年次生11名、3年次生9名が履修した。

2 実施スケジュール

科目	単位	開講期
保育実習指導ⅠA	必修 1単位	2年後期
保育実習指導ⅠB	必修 1単位	3年前期
保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	必修 各2単位	3年8～9月
保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	選必 1単位	3年後期
保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	選必 2単位	3年2～3月

- ① 入学後4月中旬に「保育士履修説明会」を行い、保育実習の時期を始めとしたスケジュールも説明し、目的意識と見通しを持って学修を開始できるようにしている。
- ② 2年次前期末に「保育実習指導Ⅰガイダンス」を実施し、国家資格としての保育士資格取得であることの認識を深める。その後、保育実習に向けて実習先の情報収集などの課題に取り組み、それぞれが実習先に関する「意向調査票」を作成して授業に臨む。

(1) 保育実習指導 I A：2年後期（1単位）

「保育所・施設実習の意義」、「保育所・施設の役割と機能」、「実習施設の理解」の学修に際して社会的養護と障害の理解についてのこれまでの学修を振り返り、小テストを実施して定着を図った。その後、施設には保育所ほど機関の特徴についても保育士の仕事についてもイメージを持ちにくい学生が多いため、児童養護施設、母子支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センターに関するビデオ教材や動画を適宜利用した。1日の流れを場面ごとに細かく試聴することで具体的なイメージができ、生活支援が持つ意味に気付くことができ、また、実際に施設の保育士がやりがいを語る動画は心構えの学びに効果があったことが見てとれた。

また、保育所以外の施設実習には、馴染みが薄く不安を感じるという学生の声があることから、今年度は「施設実習への不安」をテーマにグループディスカッションを行った。何が不安なのかを言語化し、グループ内で共有することでそれぞれの不安の中身が整理されたようである。特に「失敗をすることが不安」という声が多かったが、不安を軽減するために自分が具体的に取り組むことを見出すことで、完璧を目指すのではなくできることをやっていくという前向きな姿勢への変化が授業記録でも表現されていた。今後とも、継続して取り上げることが必要なテーマである。

各学生が希望する実習種別を検討した後、施設決定に至るまでは教員との相談を重ねていく。引き続きのコロナ禍の中、受入れ可能な施設種別は限られ、実習のための移動についても配慮を要するため調整が必要であった。しかしいったん実習先が決定すると、学生の意識は高まる様子であった。その後、内諾訪問に至るまでの書類作成などの準備、自らが実習先とやり取りをするプロセスを経る中で、様々なマナーや配慮の必要性、適切な報告、連絡、相談などの基本的態度を身に付けていった。毎回作成する授業記録には、そのプロセスにおいて学びがあることが記されている。また、春休み中に課題として、実際に現場で子どもとのコミュニケーションのきっかけにも使うことをイメージしながら「名札作り」と、実際に生活援助ができるように「家事レポート」に沿って衣食住の課題に取り組むこととした。

(2) 保育実習指導 I B：3年前期（1単位）

①保育実習の心構えと実習の基礎的な知識と技術を身に付ける②子ども理解に基づく助・支援を理解する③保育士の職務にかかる基礎的な実践力を身に付けることを目標とする。

保育実習指導 I Aを踏まえて、まず「目標と課題の設定」に取り組む。初めての目標設定に作成には戸惑いを感じがちだが、「理解する視点」、「観点」、「行動」と階層で組み立てる指導を行い、一斉授業の後は担当教員との意見交換を経て完成をさせていく。先輩の作成例も参考になっている。並行して「保育所理解」、「施設理解」、「日誌の書き方」、「保育士の倫理」、「個人情報の取り扱い」、「実習の心構え」、「健康管理」、「危機管理」について学修を進めていき、実習先への事前訪問を行うことで事前準備が完了することになる。実習直前の指導としては、「健康管理」、「危機管理」について事例や小テストを入れて丁寧に取り組んだ。直前まで施設と連絡を密にとり、必要とされる感染予防対策を講じる準備をした。

実習開始の約1月前に、4年生の「保育実習報告会（事後考察報告書に基づく発表）」を実施したが、ここに実習前の3年生も参加し、質問等交流の時間を持った。実習の緊張や不安感が軽減される貴重な機会となった。

(3) 保育実習 I（保育所）及び（施設）：3年前期（8月～9月）（2単位）

保育所及び施設において各10日間の実習を行う。今年度は8月16日～26日、9月6日～16日を基本期間として施設と調整を行った。実習中には、学科教員が分担して訪問指導を実施した。新型コロナウイルス

ウイルス関連で、実習中断となり待機を要する学生、春季に延期になった学生もあったが、大学からの指導に応じて実習に臨む態勢を維持してくれた。感染症に対する理解を深め、現状を適切に判断して気持ちをコントロールすることができていた。

（４）保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ：３年後期（２単位）

実習後「個別事後考察報告書」を基にグループと全体とでディスカッションを行い、多様な体験や指導から学び合うことで、次の実習に向けた課題が明確になった。また、実習施設からの評価開示面談を学生の作成した自己評価とすり合わせながら行う形で個別の振り返りも行った。このようにして保育実習Ⅰを踏まえて成果と課題を明確化した後、保育実習Ⅱ・Ⅲでの段階的な学びとなるよう「目標と課題（Ⅱ・Ⅲ）」を設定し次の実習に臨む準備を進めた。

「保育士の倫理」、「保育実習の心構え」は、事例を用いてディスカッションを行うことで様々な視点を学び、ワークシートや小テストで更なる確認を図った。また、新型コロナウイルス感染症予防対策を始めとする健康管理及び危機管理については様々な事例を基に指導を徹底した。

（５）保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ：３年後期（２月～３月）（２単位）

保育実習Ⅰを踏まえた発展的な実習を行うこととしている。今年度は２月１５日～２月２７日を基本に調整している。

保育実習Ⅱの目的は、「保育所の役割や機能の具体的展開の理解」、「観察に基づく保育理解」、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の理解」、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」、「保育士の業務と職業倫理の理解」、「自己課題の明確化」であり、保育実習Ⅲは、「施設の役割と機能の理解」、「施設における支援の実際」、「保育士の多様な業務と職業倫理の理解」、「自己課題の明確化」である。ちなみに、保育実習ⅢはⅠとは異なる種別の施設で行うこと、また、保育実習Ⅰの後で相談援助実習を体験して保育実習Ⅱ・Ⅲに臨むことも施設実習の学びを深めることにつながっている。

4 成果と課題

（１）実習指導科目

事前準備としての保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ・Ⅲでは、保育士科目の内容を具体的な保育場面に落とし込んで学び、実習の目標と課題を設定し、実習で取り組み、自己評価と施設からの評価とで総合的に振り返り、次なる課題に取り組むという流れを作ることができている。

（２）今後の取組み

実習施設から実習全般の積極的な態度は高く評価されていたが、子ども・利用者との関わりの積極性を伸ばすようにとの評価があったことは今後の課題である。「失敗を恐れ過ぎて」緊張する傾向があるものと考えられ対策を検討したい。

児童福祉施設は、「子どもの最善の利益」を理念としており、「子どもの権利」について擁護する立場であることへの理解を深めて臨む必要がある。また、児童養護施設においては、集団生活という捉えではなく、家庭的養育を促進することが期待されており、生活支援の持つ意味、プライベート・ゾーンの尊重、外部の実習生としての子どもとのコミュニケーションの取り方などを従来以上に丁寧に学ぶ必要があり、これらは新しい課題としてあげ挙げられる。また、子どもの権利の中でも「子どもの意見表明」を促進すべく新たな取組みが始まっていることも十分認識して実習に臨む必要がある。

（３）社会福祉実習との関係

人間福祉学科の保育士コースの学生は、保育実習ⅠとⅡ・Ⅲの間に社会福祉実習を体験することになる。保育実習の連続で子どもの施設で実習を行う学生と地域福祉など異なる領域の体験を行う学生とがいる。この実習の連続の中で目標とするソーシャルワークを土台とした保育の学びが自ずと進む面はあるが、今後、保育実習と社会福祉実習の連続的体験の中で学修できることについても更に学科内の連携で取り上げていくことが望まれる。

（４）新型コロナウイルス感染症拡大の影響

今年度も新型コロナウイルス感染症の収束はなく、入所型で外部から入ることの影響が大きい施設は実習先として予め見合わさざるを得なかった。希望の実習先が叶わなかった学生には動機付けについて丁寧な指導が必要な場合もあった。「第7波」といわれる状況が7月から9月にあり、夏季実習はその中での実施となり、実習先にも様々な調整を重ねていただいた。この状況下の実習経験は、学生にとっては、社会の中の施設の意義、施設実習の意味を深く学ぶ機会にもなっている。教職センターから「実習中における新型コロナウイルス関連の対応について」として方針が学生に明示されたこともあり、感染症対策の意識を高く持ち、報告、連絡、相談、対応が迅速になって、全般の取組み姿勢に成長がみられた。

（５）実習後の保育士科目とのつながり

保育実習後に履修する「子育て支援」、「障害児保育」、「社会的養護Ⅱ」、「家庭支援論」等の科目については、保育実習での体験を活用することでより効果的に学ぶことができると考えられるので、今後教員間の連携を強めることが望まれる。

（６）就職活動との関係

人間福祉学科の保育士資格取得学生の就職先は、近年、施設が主となる傾向が強まっている。施設では、保育士に施設種別に合った、様々な専門性が求められ、その専門性も進化してきている。保育士の学修の中で施設現場との繋がりを維持し、学生が専門性の高い内容に触れること、また、先輩保育士と接触して各種別の保育士の活躍をより身近に学ぶ機会を作り、各自の特性と照らし合わせて進路を考える機会が必要である。